

教科(科目)	家庭 (家庭総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 (普通科)
使用教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造				
副教材等	生活学Navi (実教出版)				

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①「深慮にして実践」「誠実にして勉強」「和親にして敬愛」の教育目標の下、物事に主体的に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>②自身の健康を保ちつつ、社会的な自立を目指し、多様性を尊重しながら他者と協働して取り組む力を育成する。</p> <p>③教科横断的な視点を持ち、様々な学習活動をとおして、創造力、行動力、コミュニケーション能力を育成する。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①生徒一人ひとりの目標や進路希望が実現できる教育課程を編成し、教育活動を展開する。</p> <p>②3年後の進路を見据えた学力の定着と活用に向け、ICT機器を活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を行う。</p> <p>③自己の在り方生き方を探究するため、「総合的な探究の時間」を主軸に、課題発見・解決、自己表現の育成に取り組む。</p> <p>④様々な状況や環境に対応し自己の力を向上させるため、ボランティア活動やインターンシップ、外部検定試験など、生徒が自ら挑戦できる機会となる情報を積極的に提供する。</p> <p>⑤学校行事や部活動などの生徒の主体的な活動の支援に向け、安全・安心な教育環境に努める。</p>

### 2 学習目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---

### 3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>①生活の基礎基本を学び、知識の習得と共に特に実習や観察をとおして様々な事象を科学的に理解させ、技術を身につけることを目指します。</p> <p>②自分を見つめ、周囲の人々と創造的な関係を結ぶ実践力を育てます。</p> <p>③自立に向けたシミュレートをすることにより、今後の生活面に現実感を持たせます。</p>
---

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

## 5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ ワークシート、レポート ・ 授業中の発言や取り組み などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 実習状況とその成果 ・ ワークシート、レポートなどの内容の確認などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言や取り組み ・ ワークシート、レポート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから評価する。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	2	・ 人生を展望する ・ 人生をつくる ・ これからの家庭生活と家族	・ ライフステージの特徴と課題を理解する。	1	・ ワークシート(記述の確認) ・ 授業の取り組み(行動の確認) ・ 振り返りシート(記述の分析)
				・ 生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、人生の目標を描く。 ・ 学習をとおして、人生を設計する。 ・ 家族や家庭をどう捉えるか考える。	1	
5	第3章 子どもと共に育つ	4	・ 子どもの育つ力を知る	・ 子どもの能力や心身の発達について理解する。	4	・ ワークシート(記述の確認)
				・ 子どもと関わる ・ これからの保育環境	3 4	
6 7	第7章 衣生活をつくる・	7	・ 被服の役割を考える ・ 被服を入手する ・ 被服を管理する	・ 被服に施されている工夫について理解する。 ・ 被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	3 3	・ ワークシート(記述の確認) ・ 授業の取り組み(行動の確認)
				・ 被服をつくる	1	
				・ これまで学習してきた知識を応用しながら、目的に合った被服を製作する。	7	
8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ 各章末「ホームプロジェクト」	・ ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・ 生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践しようとする。(夏季休業中課題)	夏季休業中	・ 提出物(記述・作品の確認)

9		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣生活の文化と知恵</li> <li>・これからの衣生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装についてまとめ、発表する。</li> <li>・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考え、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。</li> <li>・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むための理解を深める。”</li> </ul>	5 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(記述の確認)</li> <li>・授業の取り組み(行動の確認)</li> <li>・発表の様子(行動の確認)</li> <li>・振り返りシート(記述の分析)</li> </ul>
10 11	第8章 住生活をつくる・	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活の変遷と住居の機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通した住生活について考え、生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(記述の確認)</li> <li>・授業の取り組み(行動の確認)</li> </ul>
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で快適な住生活の計画</li> <li>・住生活の文化と知恵</li> <li>・これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</li> <li>・世界や日本のさまざまな住文化について理解する。</li> <li>・持続可能な住居や、地域コミュニティづくり、環境に配慮した住生活について理解する。</li> </ul>	2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(記述の確認)</li> <li>・授業の取り組み(行動の確認)</li> <li>・振り返りシート(記述の分析)</li> </ul>
12 1	第5章 共に生き、共に支える”	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と福祉</li> <li>・社会保障の考え方</li> <li>・共に生きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭生活を支える福祉について理解する。</li> <li>・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。</li> <li>・多様性を発揮し、共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。</li> </ul>	3 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(記述の確認)</li> <li>・授業の取り組み(行動の確認)</li> <li>・振り返りシート(記述の分析)</li> </ul>
2 3	・その他	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだことを生かし、実生活を豊かにするための工夫を考え、発表する。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート(記述の分析)</li> <li>・授業の取り組み(行動の確認)</li> </ul>

70時間 (50分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・单元ごとの実習では、作品を製作し提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

## 8 担当者からの一言

「家庭総合」は、家庭生活に必要な知識や技術を身につけると共に、暮らしと社会の課題を結びつけて考えます。変化の激しい世界の状況に対応できるよう、共生社会、大量生産・大量消費、持続可能な社会、多様性を認め合う社会など私たちの日常生活とつながる広範な内容が満載です。ぜひ、新しい時代に必要な資質や能力を育ててほしいと思います。